

実施主体、事業名などの概要

- ・事業名：指宿海域の自然共生サイトの活用と持続可能な観光モデルプロジェクト
- ・実施主体：山川町漁業協同組合
- ・対象地域：鹿児島指宿市
- ・対象とする良好な環境： かおり風景百選・平成名水百選・自然共生サイト

地域の現状・課題

- 指宿市には古くからの知られた温泉地としての位置づけに加え、「自然共生サイト」を含め豊かな自然が存在するが、それが観光資源としての魅力に結びついていないのが現状。
- 加えて、指宿市にコロナ禍以降の観光需要回復を取り込むために周遊性や体験を伴う滞在型の観光コンテンツが不可欠。

目指すべき姿（中長期ビジョン）

- 内外の観光客の来訪、滞在を増加させるとともに、海と藻場が果たす気候変動や生物多様性にかかる機能発揮への理解促進も含めて、観光と環境保全へ資金を還流させる。
- 温泉と豊かな自然を基軸とした観光地としての魅力（競争力）と持続可能性（サステナビリティ）を向上させることを目指す。

実施項目（事業内での取組）

- 邦人トライアルツアーの課題等を踏まえたツアーの再検討・実施
- インバウンドツアーの企画と試行
- 地域資源を観光資源として価値化し、循環とマネタイズ検討
- 九州南北をつなぐコラボツアーの企画と検討

R7：受入態勢構築

実施項目（事業内での取組）

- 観光コンテンツの具体化・整理
地域におけるキーストーリの検討
- トライアルツアーの実施
- 既往観光コンテンツと連携した周遊パッケージの検討
- ビジネス化に向けた次年度の行動指標の整理（ガイド育成・受入態勢の検討）

R8：実施体制構築

R9：ツアーの販路形成

（事業期間終了後）

実施項目（自走化）

- R8年度の取組継続に加えて、インバウンドツアーの事業化
- 地域資源を活用した、修学旅行や企業研修等（国内外含む）向けのツアーの外販を試行
 - * 令和7-8年度の取組を踏まえて、計画は随時アップデートするため、追加修正の可能性
 - * 観光の付加価値を向上しながらアマモや自然環境の保全と再生

対象となる良好な環境の概要

- 指宿市は鹿児島湾（錦江湾）から東シナ海に臨む長く美しい海岸線を有し、市の全域を霧島火山脈が縦断していることから、豊富な湧出量をほこる温泉地として全国に知られている。特に世界的にも珍しい「天然砂むし温泉」は1700年の初頭からの古来の湯治場として国内外の観光客が訪れている。
- 加えて、指宿市は公的な認定を受けた豊かな自然に基づく観光資源を多く有している。例えば、一定期間の干潮時に陸地と砂州で繋がる①知林ヶ島は環境省「かおり風景百選」に、回転式そうめん流しの発祥の地とされる②京田湧水は環境省「平成の名水百選」に認定されている。
- また、直接的な観光資源ではないが、山川町漁業協同組合が③藻場造成と漁業経営を両立させてきた海域が、漁協主体の申請としては全国初となる環境省「自然共生サイト」に認定されている（サイト名「山川の海のゆりかご」）。



良好な環境に係るストーリー

本事業で検討するツアーは、**地域において不可欠な生態系サービスを提供する環境の保全、再生に寄与することを目指す**。特に、地域資源である自然共生サイト等の自然環境や、個性豊かな食文化などの付加価値を高め、伝え、体験してもらうことで地域内でのみ循環していた資源を価値化し、売り上げの一部やツアー参加者の体験そのものを藻場保全等への動員に発展する**好循環の形成を目指す**。

【気候変動への適応】

● 変わりゆく自然環境のモニタリングをしながら、漁業、観光を持続可能な形とするために現状を把握し、地域の情報を常に集め、**適応策の検討と反映を実施**

【自然資本・生物多様性への貢献】

● 藻場の造成と回復の促進により、魚介類の生息環境が改善し、ひいては地域の基幹産業である**漁業の持続可能性向上（水産資源回復、海洋環境の改善）につなげる**。

【藻場を通じたサステナビリティの意識向上】

● 漁業者のみならず、観光コンテンツとして地域内外の様々な来訪者が**藻場造成活動に参加することで、サステナビリティに向けた行動変容や意識醸成につなげるだけでなく付加価値と好循環を生む**。

良好な環境への付加価値の波及イメージ

モデル事業の実施

海域の自然共生サイトの活用を基軸とした観光モデル

1. 環境学習プログラム
2. 藻場造成・保全活動
3. 水産資源の活用
4. カーボンオフセット



温泉や「かおり風景百選」「平成の名水百選」に認定されたサイト等の既往コンテンツ

事業の付加価値

新たな観光資源の創出

地域ブランドの向上

官民連携の強化

地域経済と環境保全の両立

良好な環境への波及



気候変動への貢献
炭素吸収による気候変動の緩和



自然資本・生物多様性への貢献
藻場による水産資源の回復



サステナビリティ意識の向上
藻場を通じた体験による行動変容

（特に漁業者所得向上を通じた）好循環

実施体制（図示）

実施体制は以下の通り。行政を含む観光関係者、漁協を中心に、地域内で連携のうえ本事業を推進するが、トライアルツアー等では地域外企業や大学、専門家等の協力を得ることで、ツアーのビジネス（マーケットイン）の観点からの評価やインバウンドを見据えたケーパビリティの獲得を図る。

主要メンバー

主な役割



指宿市
観光課、商工水産課、
環境政策課

- 観光ビジョンにおける本事業の位置づけ調整
- 市の観光、水産、環境政策との連携
- 他観光要素と組み合わせた情報発信



いぶすき観光デザ
イン

- 商品企画等にかかる関連情報の提供
- 観光パッケージ開発にかかる助言
- 観光パッケージの販売・受け入れ窓口
- 地域ストーリーを語るガイド人材育成

指宿観光 & 体験の会

- 茶揉みや鰹節工場見学等の豊富な体験ツアーの組成経験を活かした商品企画、全体助言、地域との橋渡し



山川町
漁業協同組合

- 自然共生サイト管理者
- 藻場等の体験コンテンツ企画、ハード整備
- ブルーカーボン協議会会員等との連携
- 地域ストーリーを語るガイド人材育成
(通訳：鹿児島大学と連携、ガイドの人材：漁協担当者)

事業応募者



指宿市
観光協会

- 本事業においても重要な位置付けと考えているため、連携に向けて協議していく

【R7年度取組】

観光コンテンツの 具体化・整理【済】

- 自然共生サイトを活用した環境学習や体験を織り交ぜた観光コンテンツ特定、実施フローの具体化
- かおり風景百選、平成の名水百選に認定されたサイト等を活用したキーストーリーの検討

トライアルツアーの実施 【済】

- 地域住民、大学・専門家、企業等が参加したトライアルツアーの実施（8月、9月の2回実施）

既往観光コンテンツと連携した 周遊パッケージの検討【実施中】

- トライアルツアーの実施結果を踏まえた周遊パッケージの検討、具体化

ビジネス化に向けた次年度の 行動指標の整理【実施中】

- 次年度以降のツアー実施数・参加者、ブルーカーボン等への認知度、水産物の消費拡大、藻場造成面積、ブルーカーボン創出量といった指標の設定
- 実施体制整備

特に工夫した点・取組成果

- 地域内関係者での連携による指宿全体の周遊性を意識しつつトライアルツアーにつながるコンテンツの洗い出し

特に工夫した点・取組成果

- 指宿への初訪問となる参加者を含め多角的なフィードバックを獲得
- 個別コンテンツをツアーとして落とし込むにあたっての実践的な課題感の把握
- SUPを用いた環境体験

今後のスケジュール

- トライアルツアーの実施結果を踏まえて、年内をめどにパッケージの最終化
- 年度内をめどに再度トライアルツアーを検討

今後のスケジュール

- 左記の実施結果を踏まえて、年明けをめどに最終化する想定
- 実施体制の整備については域内連携事業者と協議し、年度内を目途に策定する

R7年度のゴール

- 自然共生サイトを活用した環境学習や体験を織り交ぜた観光ツアー（パッケージ）の具体化
特に、参加モニターに環境保全体験をしてもらい、活動の延長線で生産される自然共生サイト由来の水産物を食することで、環境活動の重要性や豊かな海づくりに貢献してもらう。
- インバウンドを見据えたビジネス化に向けた課題感の把握

課題

- トライアルツアーを踏まえた観光ツアーパッケージの最終化（例えば、砂蒸し風呂やSUPに付随する着替えや入浴時間の十分な確保※特に女性のトライアルツアー参加者から改善の要望あり、個別のコンテンツにおける背景やストーリー、関連の説明時間の確保といったトライアルツアーで得られた課題を踏まえたパッケージの再検討）

取組内容詳細：第一弾 県内+県外向けモニターツアー（アマモの種まき）



①漁協会議室にて座学+アマモの種子の選別
(環境問題・アマモについて知ってもらう)



②アマモの種まき・SUP体験
(SUPでアマモ場に行き種をまく)



③山川砂蒸し温泉 砂湯里
(疲れた体を癒してもらう)



④平成の名水百選 京田湧水



⑤唐船峡 そうめん流し
(本枯れ節を使用しためんつゆ使用)



⑥自然共生サイト由来の食事の提供
(県外ツアーのみ)

アンケート 結果

- ・最初にインバウンド向けとお話されていましたが、国内の修学旅行や企業研修でニーズがあると感じました。
- ・種の選別の前に、藻場再生をするに至った経緯、今行っている取り組みなどを時間をかけて(3~40分くらいはかけてもいいかと思えます)説明することで、学習や研修をしている、という実感強くなるとともに、この後の種まきから、地域への愛着が湧くことにつながると思います。
- ・今回は唐船峡での食事でしたが、川畑さんが説明の時に話されていた「駆除したアマモを食べる魚で作ったお弁当(のり弁のようなもの)」が開発されたら、そちらを食べるほうがより面白い体験になると思います。
- ・インバウンドの知ることの欲求を意識するべき。体験もいいが、もう一步、二歩先の質問がインバウンドでは寄せられる。自身が体験するところであれば、魚の取引にあるから、これがあるんだっていうのを、もっと丁寧にしないとちょっと厳しい。
- ・アテンドする側が説明だけでは関することだけではなく、日本の食文化からはじまる。インバウンドを想定するのであれば、こういう文化があって、こういう風習がなく、参加者にどのようなバックグラウンドがあるのかを把握して、双方向の対話を意識してツアーを展開していくのがインバウンドを見据えれば必要かもしれない。相手の文化や風習と、今回のツアーコンテンツにどんな共通点、相違点があるかを踏まえて対話するれば、意義や意味を理解されやすい。

取組内容詳細：第二弾 県外向けモニターツアー



① アマモマット製作



② 漁師料理体験教室



③ 漁師めしの提供
(地元漁業者との交流)



④ 基幹産業の鯉節工場見学

第一弾の県外モニターツアーのアンケートを踏まえ、今回は単なる観光ツアーにするのではなく、指宿市山川の“伝統や文化”を学ぶ場として実施。さらに漁師飯の調理体験を提供することで、食を通じて海を豊かにする環境づくりの必要性も理解してもらう。

アンケート 結果

内容の満足度は高いが、もう少しアマモの内容を充実させてほしいとの意見が多い。

- ・環境と観光を主なテーマとするのであれば今回の内容は充実したプログラムだと思います。環境保全を学ぶ事をメインとするならアマモに関する時間をもう少し増やすと参加者の理解と充実感が増すと思います。
- ・モニターでアマモの説明動画を流すとか、もうちょっと時間を割いてもいいのではないかと思います。
- ・タネまきは水中での作業がリアルタイムでなくても良いのでその場で見られるとより実感がわく
- ・漁師飯は大変よかった。もう少し漁師家族とゆっくりと話ができてよい
- ・水揚げの所は作業場自体の音が大きいので、あまり話が聞こえなかった。参加者にもっと話が伝わる様にマイク使うなど何か対策して欲しい

まとめ

今後の改善・方向性

- ①「余白」を設けて参加者が考え・交流できる時間を作る
→「分からない」ことを伝え、参加者へも「想像」してもらう工夫
- ②各体験の意味・背景を丁寧に伝える
→ブリーフィング時間を冒頭に設定する、体験を絞る、ストーリーを語り、体験してもらう
- ③ターゲットを意識したエコツアーの構成を検討する
→背景を知る散策やブリーフィング→SUPで自然体験と観察、保全活動→保全した先につながる魅力の実感→持ち帰り・振り返り（スライド10参照）
- ④コンテンツ実施・受入地域の持続性を第一に考え、地域が消費されない工夫とツアー設計
→プライベートと分けながらも、地域を体験することができる工夫

本事業を通して実現する「保全と活用の好循環」の仕組み

保全の具体的内容・方法

- アマモ種苗の設置：アマモ場から種を採取し、それを織り込んだ種苗（アマモマット）を設置
- ウニの駆除：食害の主な原因となるウニについては漁業者が潜水、駆除
- 囲い網の設置：南方由来のイスズミやアイゴ等の侵入を防止、生態系の保全のため、一部海域を包囲する囲い網を設置
- 潜水によるモニタリング：漁業者等による潜水でのモニタリングを定期的実施し、活動の効果検証や顕著な海洋環境の変化等がないかを確認

活用の具体的内容・方法

- 自然共生サイトでもあるアマモ場の自然体験
・ SUP、シュノーケリングなど
- アマモ場の保全活動やモニタリングへの参加
・ 種採り、選別、播種等（季節、回数、人数限定）
- 漁場や漁港の見学
・ 自然共生サイトでの魚介類販売
- 鰹節工場の見学と出汁体験
- 鰹節ご飯、さつま揚げ、ローカル飯の体験
・ 漁師飯の提供や調理教室の実施

活用から保全への還元方法

- 地域資源を活用したコンテンツを充実させることで、宿泊を伴う滞在型の観光拡大を図る
- 地域資源（鰹節ご飯、さつま揚げ等）の飲食・消費拡大を図る
⇒得られた資金を藻場や自然環境の保全・再生活動、地域の海洋教育へ還流する好循環の形成
* 売上の一部をフィードバック
- 地域内外への理解増進と、ノウハウを他地域にも還元し、更なる地域展開と広域連携を目指すことで、九州全域での活用と保全の好循環の輪を広げる

【R8年度取組】

トライアルツアーの課題等を踏 まえたツアーの再検討・実施

- 藻場・ブルーカーボン、自然共生サイト等の意義訴求やコンテンツ間の接続といった課題感を踏まえて、観光ツアーとしての精緻化

欧米向けインバンドツアー の企画と試行

- 地域資源の洗い出し
- 資源となるコンテンツごとにツアーを企画・立案
- モニターツアーの試行

地域資源を観光資源として価値 化し、循環とマネタイズ検討

- モニターツアーの企画、立案への反映
- 付加価値化

九州南北をツングコラボツアー の企画と検討（広域展開）

- 九州南北で連携する環境活動ツアーを企画
- 実施可能性について検討
- 実施体制の構築

想定する成果

- インバウンドを想定したツアー企画に反映
- 地域資源の洗い出しと整理
- インバウンドに向けたモデルツアーの企画と催行
- 地域の理解増進

想定する成果

- ニーズの発掘、市場の開拓
- 地域資源を観光資源に昇華
- フィードバックを踏まえてブラッシュアップ
- 事業化に向けた準備と反映

想定する成果

- ストーリーの深掘りや山川で実施する意味、意義付け
- モニターツアーの事業化やガイド育成、地域へ還元
- さらなる資源の発掘とツアーコンテンツの立案

想定する成果

- 空港や主要駅から距離がある山川地区への集客への課題解決に資する
- ノウハウの提供と山川地区の自然、魚介類、観光のプレゼンス向上とシナジー

R8年度のゴール

- トライアルからビジネスに向けた観光ツアー（国内外）としてのパッケージの整理、マーケティング戦略の立案、実施体制の構築（R9年度からビジネスとして展開）

想定される課題

- ツアーの恒常的な実施体制の構築（藻場の造成、保全にかかる専門知見、インバウンドを見据えた英語でのコミュニケーション人材の確保等）

令和8年度のモデルツアー（案）：令和7年度の結果を踏まえた再検討

モニターツアー案①

1. 導入

- ・自己紹介、交流、背景の案内

2. 自然体験と観察

- ・SUPやスノーケリング

3. 昼食

- ・自然共生サイトの魚介類弁当
- ・鰹節ご飯、さつま揚げ

4. 解散

- ・漁協購買での買い物
- * 自然に思いを馳せるところから、実感、体験、昼食から購買へつなげる工夫

対象 : 欧米からのインバウンド

人数 : 4～5人

時間 : 10時～14時（4 H）

モニターツアー案②

1. 導入

- ・自己紹介、交流、背景の案内

2. 鰹節工場見学

- ・鰹節の歴史や工場の案内
- ・鰹節削り体験
- ・出汁の飲み比べ体験

3. 昼食

- ・鰹節ご飯体験（さつま揚げも）

4. 解散

- ・漁協購買での買い物
- * 地域の歴史や町の産業を支える漁業や文化に触れてからの体験

対象 : 欧米からのインバウンド

人数 : 4～5人

時間 : 10時～13時（3 H）

モニターツアー案③

1. 導入

- ・自己紹介、交流、背景の案内

2. モニタリングと自然観察、保全活動

- ・ウニ駆除
- ・アマモ花穂採取、選別、播種等
* 季節によって変わります
- ・生き物観察
- ・アマモ観察

3. 昼食

- ・自然共生サイトの魚介類弁当
- ・鰹節ご飯、さつま揚げ

4. 解散

- ・漁協購買での買い物
- * よりコアな体験プログラムとして地域の漁業者との交流や保全活動を提供

対象 : 欧米からのインバウンド

人数 : 10人

参加費 : 20,000/人

時間 : 10時～14時（4 H）

* 国内向け？インバウンドには通訳が必須

【付加価値とマネタイズ】（保全と利活用の好循環）

- * 定置網で水揚げされる魚介類のセリ体験なども検討

【地元との交流】（地域が消費されない範囲で）

例）漁師の家族が「ご飯できたよ～」などという形で鰹節ご飯を持ってきてもらう等

【広域展開】ノウハウを他地域へも還元し広域展開（将来的には唐津や博多も）